

本市を含む近隣市町村は、社会的、経済的な結びつきが強く、様々な分野で密接な関係を構築してきました。

2019年度には二本松市が参加し本市を含め16市町村で「こおりやま広域連携中枢都市圏」を形成し、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するため、取り組みを進めています。公共施設の相互利用促進や、産業や環境分野等の共同研究、そして2019年の令和元年東日本台風被害等の災害対応に係る相互支援等、様々な分野において協力・連携が進められています。

今後、幅広い住民の意見を反映させ、より一層魅力的な広域圏を目指していくため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(政策開発課)

調査概要

- 調査期間 令和2年10月19日(月)～10月28日(水) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 316名 (男性 152名 女性 164名)
- 回答率 87.8%



こおりやま広域圏
ポータルサイト

＜回答者内訳(人)＞

性別/年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	6	6	15	30	33	15	40	7	152
女性	7	10	37	55	38	14	2	1	164
合計	13	16	52	85	71	29	42	8	316

＜広域連携への理解＞

98.1% (310人) が賛同する、1.9% (6人) が賛同しないと回答

＜こおりやま広域圏の認知度＞

52.8% (167人) が知っている、47.2% (149人) が知らないと回答

＜交流の内容＞

「買い物や外食等」 (59.0%)、「親戚や友達等との付き合い」 (53.6%)

「観光地、公園、レジャー」 (47.1%)、「文化スポーツ施設等利用」 (21.2%)

＜圏域の共通課題＞

「少子高齢化の進行」 (57.0%)、「まちなかの賑わいが少ない」 (45.3%)、

「交通の便が悪い」 (32.6%)、「人口が減ってきている」 (29.4%)

＜連携を深めていくべき取組＞

「災害時等の相互支援体制」 (62.7%)、「新型コロナウイルス等感染症対策」 (38.6%)、

「地域の防災・安全対策」 (34.8%)、「誰もが柔軟に働くことができる環境整備」 (28.5%)

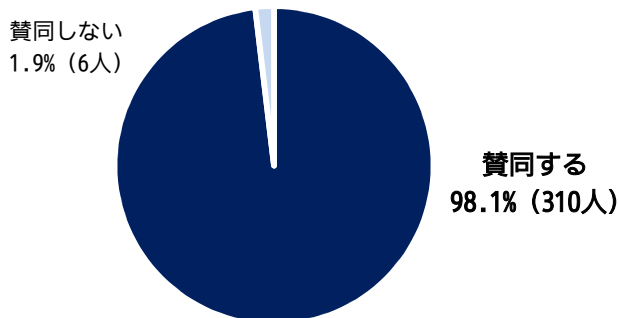
【考察】

- ・広域連携の推進自体についてはほとんどの方が「賛同」と回答している。
- ・全体の認知度は52.8%と前回調査時(2019年)の45.5%より向上したものの、依然としておよそ半数の方が知らないと回答しており、引き続き様々な対象に向けた効果的な周知方法について検討していく必要がある。
- ・買い物やレジャー、親戚や友達の付き合い等、連携市町村と何らかの関わりをもっていると回答した方が92.7%と、双方向的な交流が圏域内で行われている。
- ・中枢都市(郡山市)の役割については「リーダシップ」という意見が多い。一方、連携市町村の役割については「情報発信」のほか「それぞれの強み・特性の発揮」といった回答も多く見られ、連携への主体的な参画が求められている。

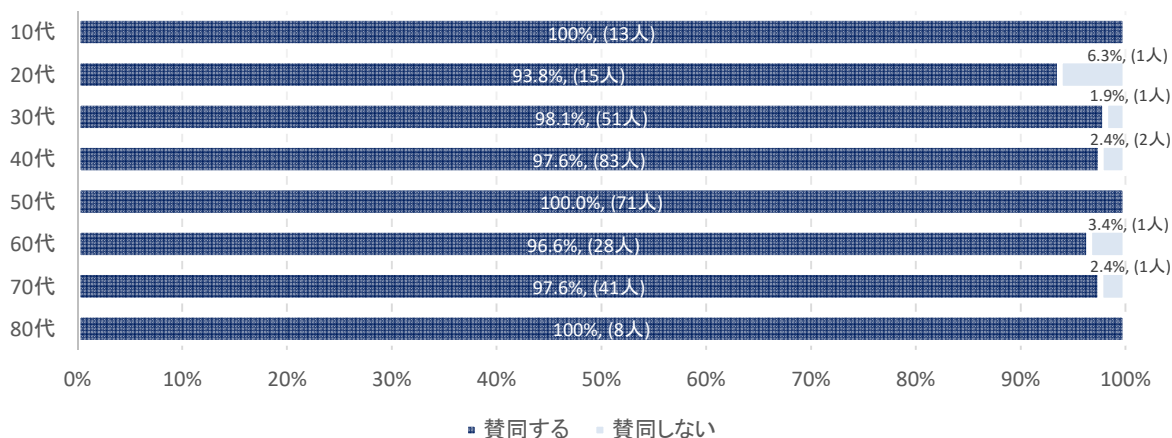
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

**問1 近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、どのように思いますか？
(1つ選択)**

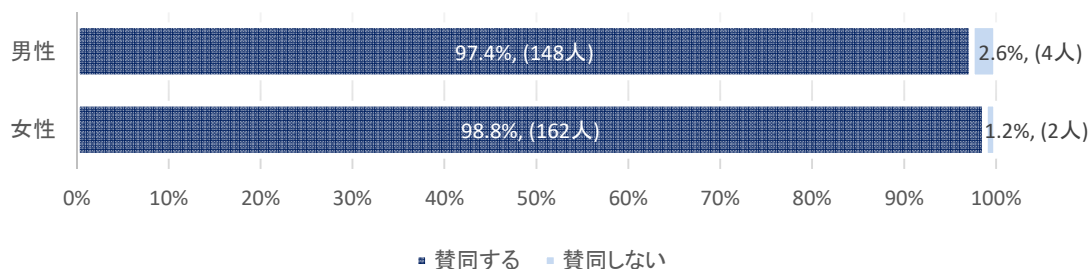
(回答者：316人)



年代別



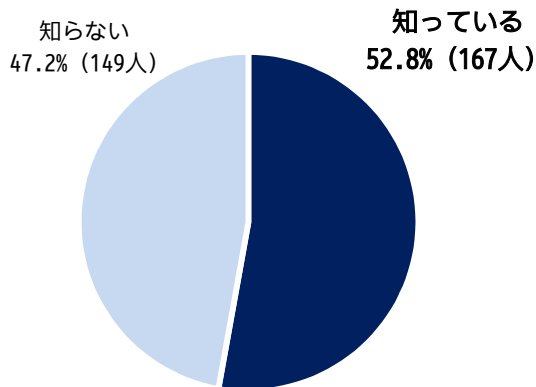
性別



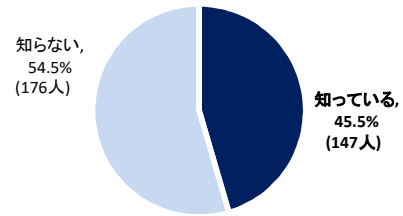
近隣市町村との広域連携推進について、全体の98.1%が賛同すると回答。
年代別に見ても、全年代において90%を超える方が賛同と回答しており、特に10代、50代及び80代では100%となっている。
また、性別でも男女差はほとんどなく、「広域連携の推進」については、概ね理解を得られている。

問2 「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」についてご存じですか？
（1つ選択）

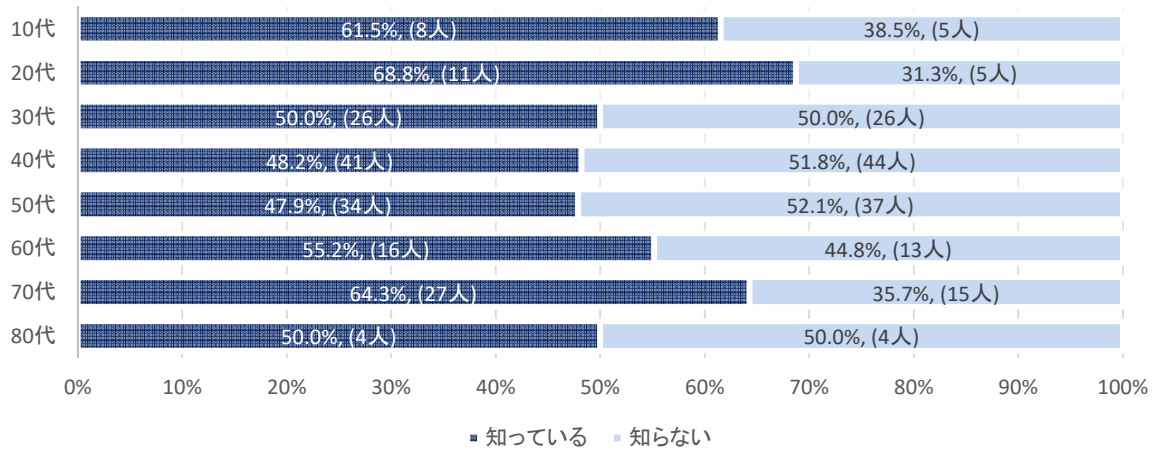
（回答者：316人）



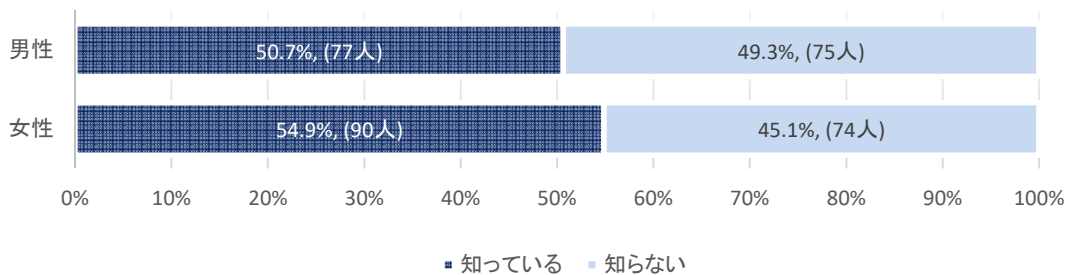
【参考】 前回調査(2019年度)
（回答者：323人）



年代別



性別

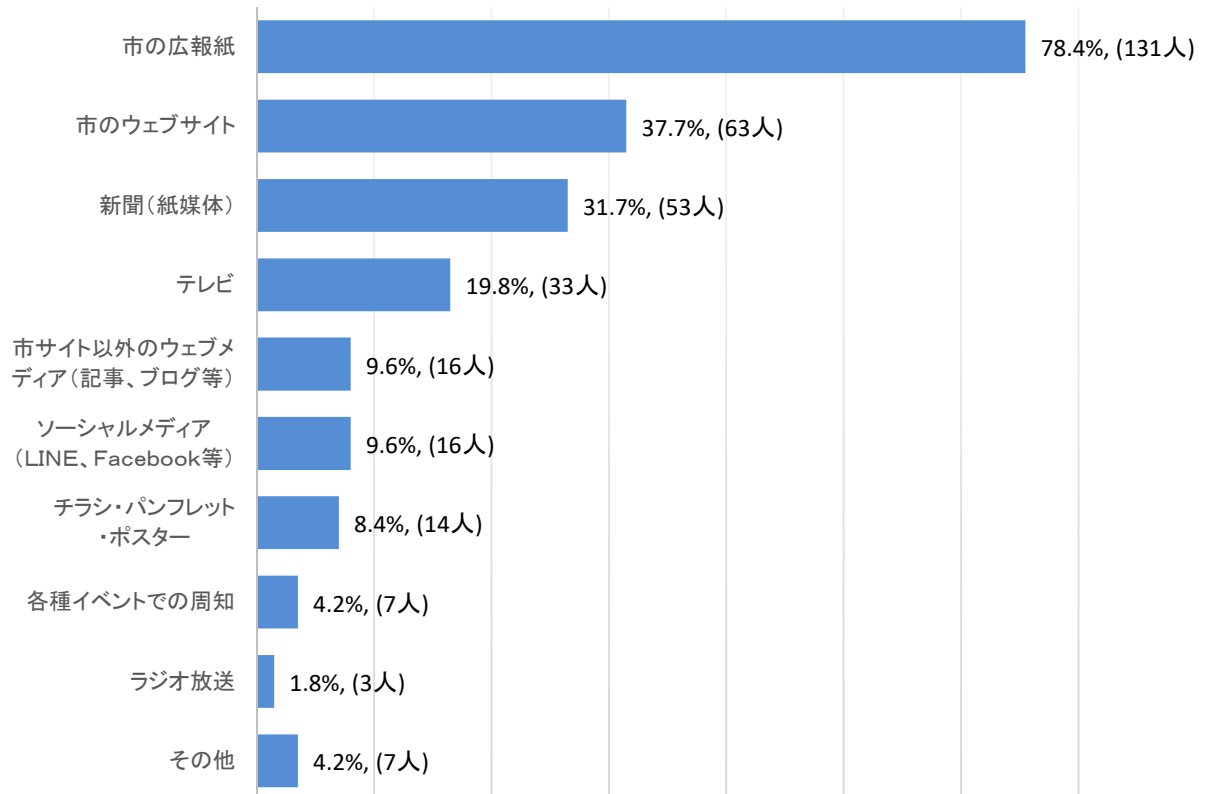


こおりやま広域圏の認知度について、全体の半数強の52.8%が知っていると回答。
年代別では、20代の認知度が68.8%で最も高く、最も低い50代でも47.9%と、年代による認知度の差は小さい。
性別では、男性の認知度が50.7%、女性の認知度が54.9%と、性別によっても大きな差は見られなかった。

※回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

**問3 問2で「知っている」を選択した方にお伺いします。どのような方法で
知りましたか？ (3つまで選択可)**

(回答者：167人)



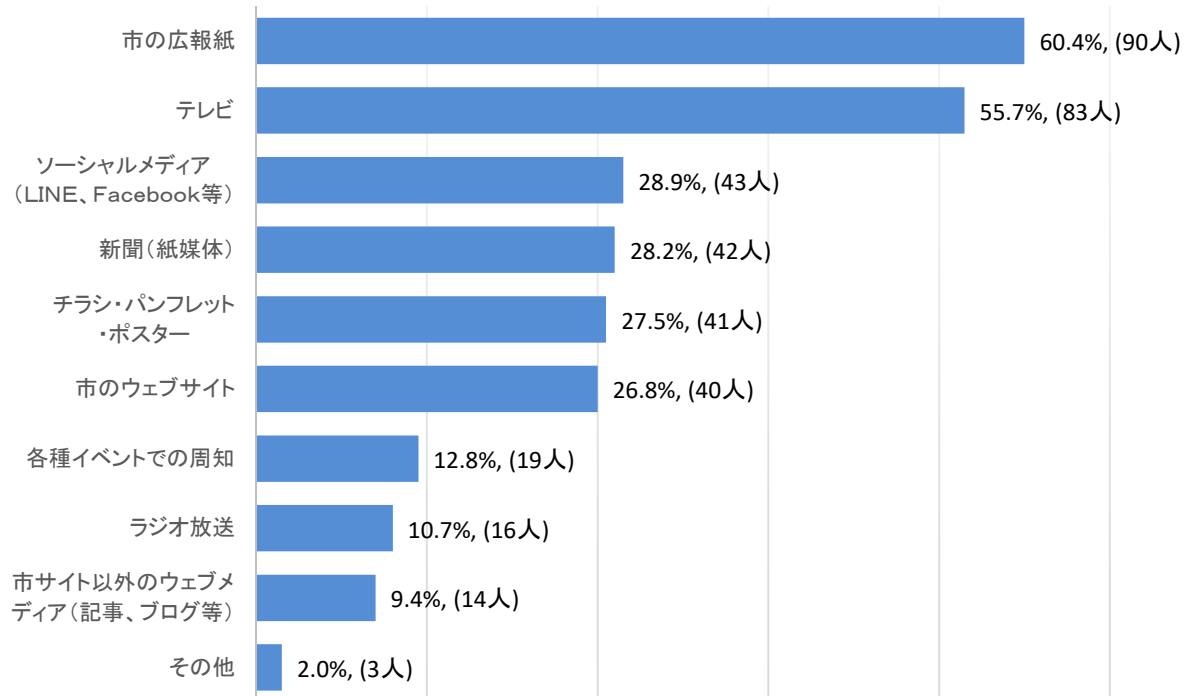
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・ 昨年のもちづくりネットモニター
- ・ あさかの学園大学の授業
- ・ 市の職員から直接聞いた

こおりやま広域圏を知った媒体としては、「市の広報紙」が78.4%と最も高く、次いで「市のウェブサイト」が37.7%、「新聞(紙)」が31.7%、「テレビ」が19.8%となっている。
相対的に、デジタル媒体よりも紙媒体からこおりやま広域圏の情報を得ている方が多い。

問4 問2で「知らない」を選択した方にお伺いします。周知を強化するためには、どのような方法に力を入れてほしいと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：149人）



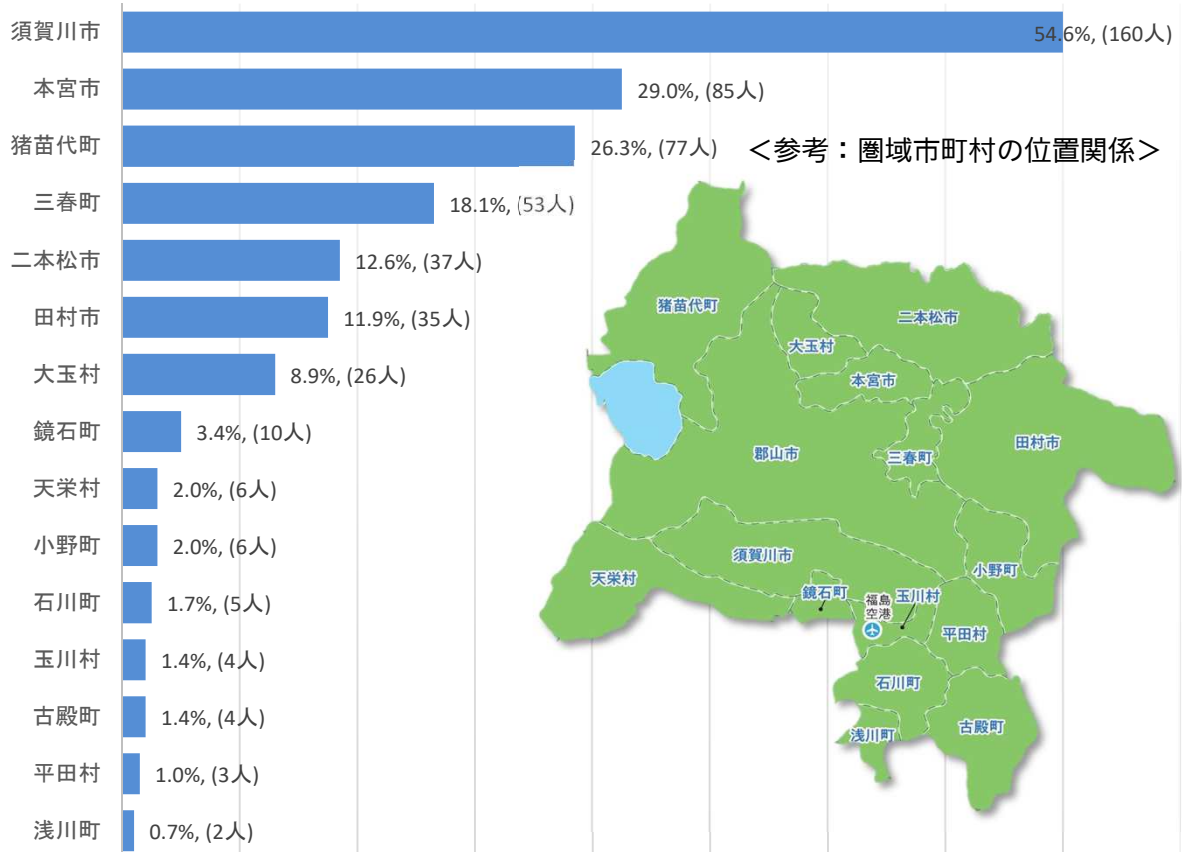
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・学校の授業
- ・CM

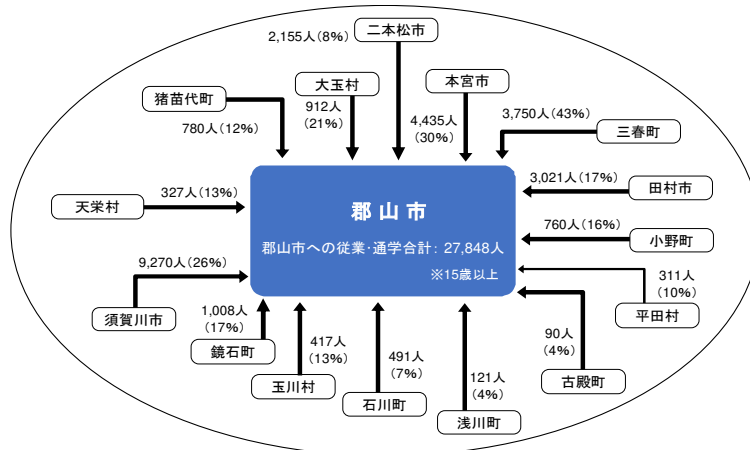
周知を強化するための方法については、「市の広報紙」が60.4%と最も高く、「新聞（紙）」の28.2%と合わせて、前設問と同様、紙媒体の需要が高いことがうかがえる。また、「テレビ」が55.7%、「ラジオ放送」が10.7%と、メディア媒体についても高い需要があることから、さらなる有効活用を検討する必要がある。なお、デジタル媒体については、「ソーシャルメディア」28.9%、「市のウェブサイト」26.8%となっており、紙媒体やテレビ等メディアとの効果的な組み合わせが今後の検討課題である。

問5-1 あなたは、現在、どの市町村と交流が深いですか？（2つまで選択可）

（回答者：293人）



<参考：郡山市への通勤通学割合「国勢調査（2015年）」>

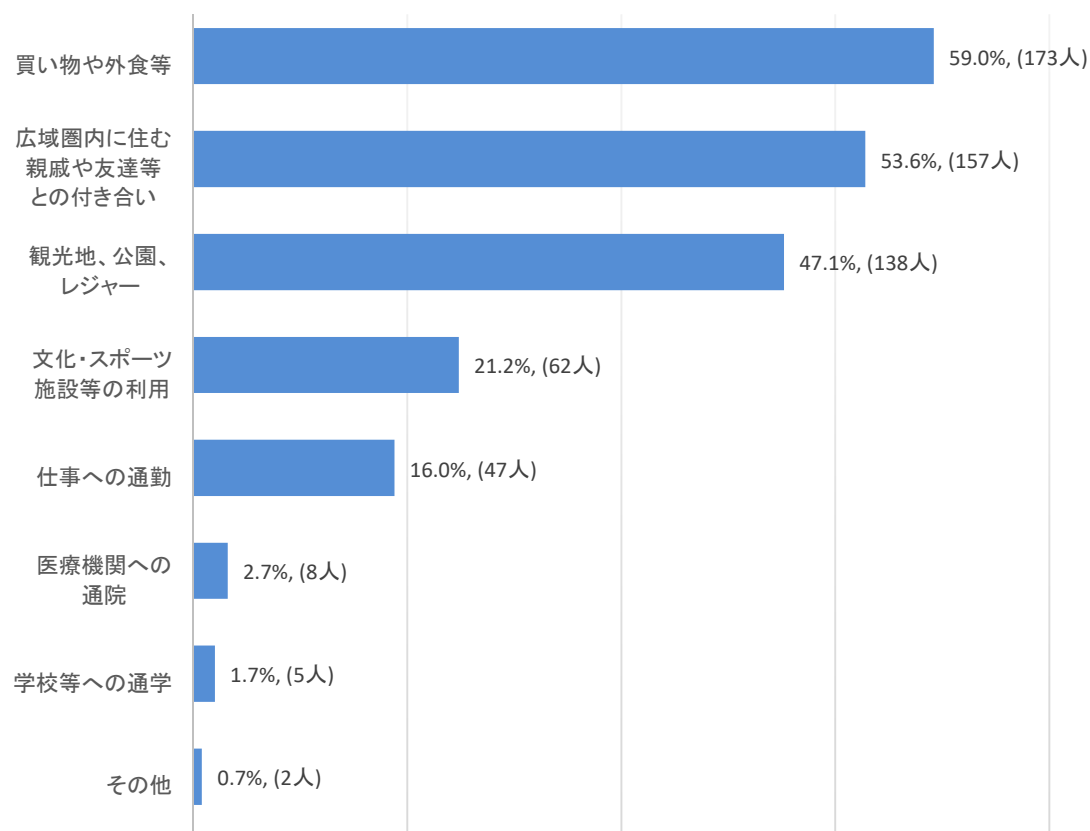


交流が深い連携市町村については、本市と隣接しており、人口も多い「須賀川市」が54.6%と最も高い。次いで「本宮市」、「猪苗代町」、「三春町」と、本市に隣接する市町村が続いており、距離的な近さ（交通アクセス）と交流人口の関連性がうかがえる。

全体としては92.7%が、こおりやま広域圏の市町村と何らかの関りをもっていると回答しており、市町村間で双方向的な交流が行われているといえる。

問5-2 問5-1で選択した市町村と、どのような交流をされていますか？
(2つまで選択可)

(回答者：293人)



※「その他」を選択した方の主な回答

- ・福島空港の利用

連携市町村との交流内容については、「買い物や外食」59.0%と最も高く、次いで「親戚や友達等との付き合い」53.6%、「観光地・公園・レジャー」47.1%の順になっている。

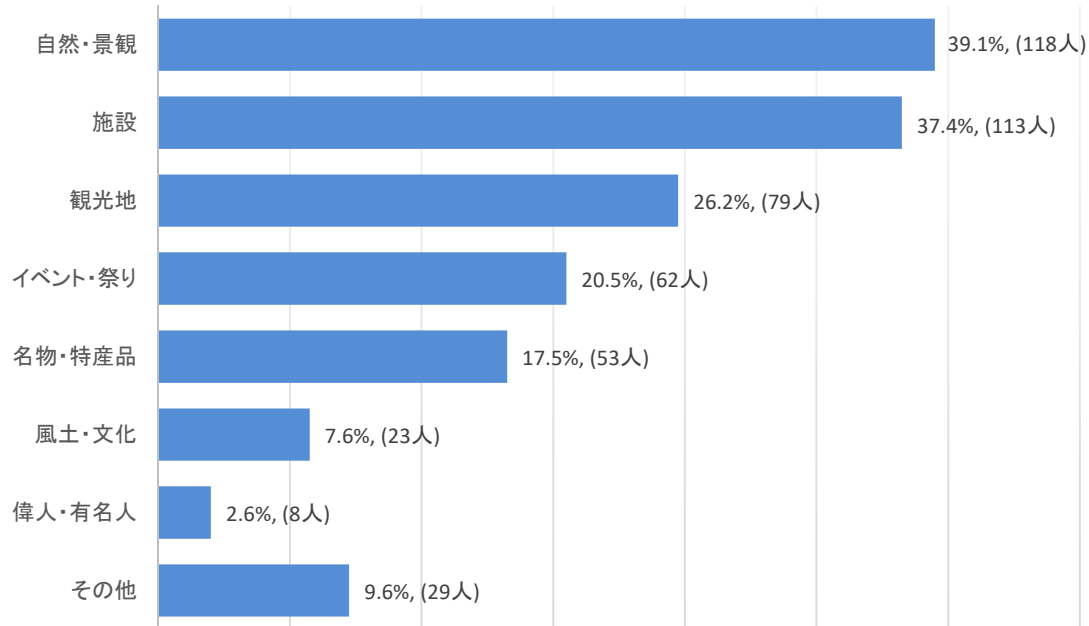
全体としては、回答者の約半数が、買い物や観光・レジャー、親戚や友人との交流等でおおりやま広域圏の市町村と関わりをもっている。

問6 こおりやま広域圏で圏域外に自慢できるような特徴は何だと思えますか？

※分類を選択後、具体的な内容を回答（2つまで選択可）

（回答者：302人）

< 分類 >



・分類別の具体的な内容（主なもの）

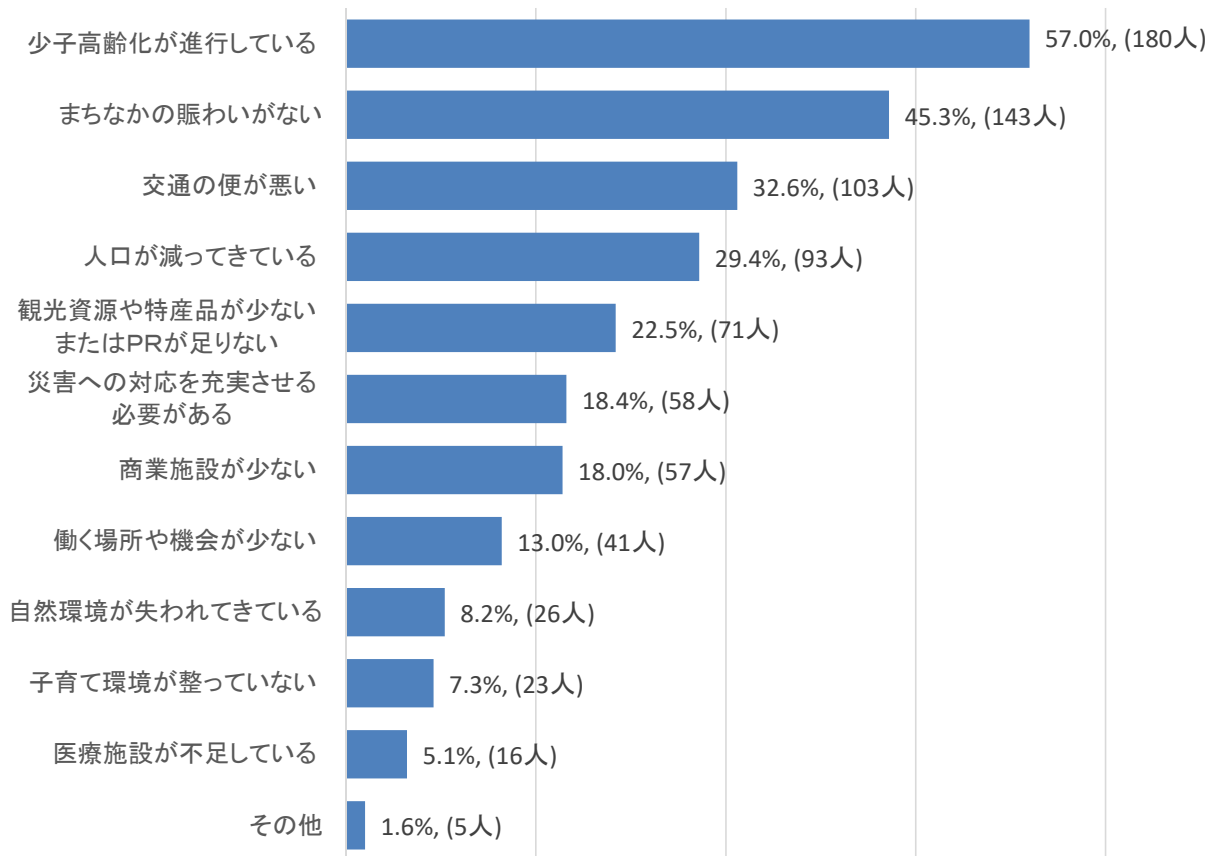
■自然・景観	山（磐梯山、安達太良山、阿武隈高原 等）、湖（猪苗代湖、羽鳥湖 等）、あぶくま洞、布引公園、行事ヶ滝、遠藤ヶ滝遊歩道、東野の清流、紅葉、蕎麦畑 等
■施設	各商業施設、集客施設（ビッグパレット、ビッグアイ（プラネタリアム）、tette 等）、公園・子どもの遊び場（ペップキッズこおりやま、みずいろ公園 等）、医療施設、美術館、文化センター、屋内プール 等
■観光地	山（磐梯山、安達太良山 等）、猪苗代湖、安積疏水、滝桜、温泉（磐梯熱海温泉、岳温泉）、大安場古墳、ゴルフ場 等
■イベント・祭り	イベント（開成山公園やビッグパレットでのイベント、二本松菊人形 等）、地域のお祭り（うねめ祭り、安積國造神社例大祭、釈迦堂川花火大会、松明あかし、二本松提灯祭り 等）
■名物・特産品	日本酒、米、野菜、果物、鯉料理、各地の銘菓、ウルトラマン 等
■風土・文化	安積疏水、柳橋歌舞伎、奥州街道 等
■偉人・有名人	偉人（後藤新平）、有名人（西田敏行） 等
■その他	交通の利便性、経済規模、医療機器産業 等

圏域外に自慢できるような特徴については、「自然・景観」と回答した方が39.1%で最も高く、具体例についても山、湖、紅葉など様々な種類があげられ、四季折々の自然が楽しめる環境を魅力と感じている方が多い。

次いで、郡山市のビッグパレットや須賀川市のtette等の「施設」、三春の滝桜等の「観光地」、二本松市の菊人形等の「イベント・祭り」の順となっている。

問7 現在、こおりやま広域圏において「共通課題」と感じるのは、どのような
ものですか？（3つまで選択可）

（回答者：316人）



※「その他」を選択した方の主な意見

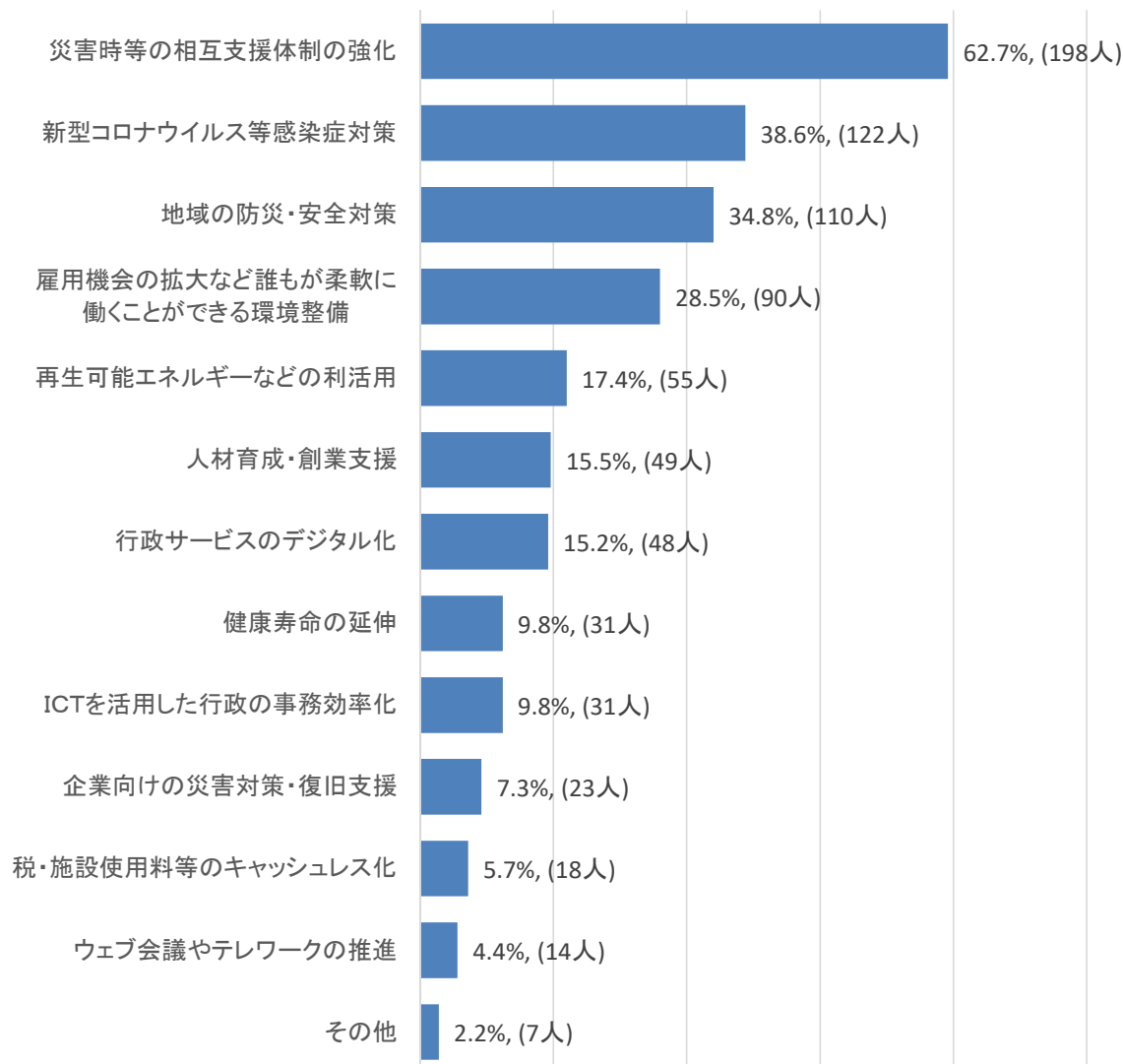
- ・よいものは沢山あるのに点在しており、相互につながっていない
- ・子どもの学力・体力低下
- ・人口分布に偏りがある

こおりやま広域圏の「共通課題」と感じるものについては、「少子高齢化が進行している」が57.0%と最も高く、次いで「まちなかの賑わいがない」45.3%、「交通の便が悪い」32.6%、「人口が減ってきている」29.4%の順となっている。

人口減少・少子高齢時代を迎える中で、まちなかの活性化や公共交通など住民の足の確保などが課題と認識されている。

問8 こおりやま広域圏では、特に次に掲げる事項に取り組んでいきたいと考えていますが、どのような取り組みの連携が重要だと思いますか？
(3つまで選択可)

(回答者：316人)



※「その他」を選択した方の主な意見

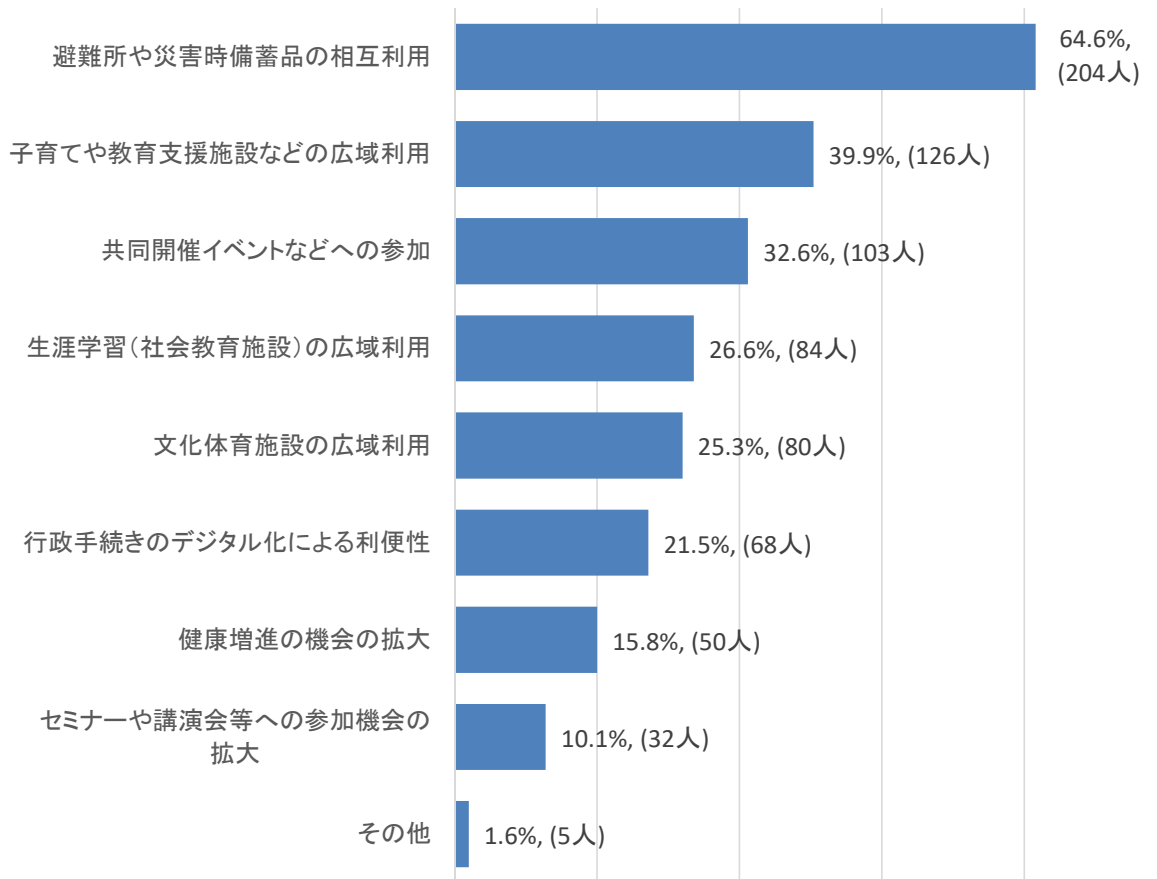
- ・医療体制の連携と発達
- ・休耕地の活用
- ・少子化対策・教育面での連携

連携が重要だと考える分野としては「災害時等の相互支援体制の強化」が62.7%で最も高く、次いで「新型コロナウイルス等感染症対策」が38.6%、「地域の防災・安全対策」が34.8%となるなど、2019年の東日本台風をはじめ近年多発する豪雨災害等に加え、感染症拡大への対策を重要視する傾向が見られる。

次いで「雇用機会の拡大など誰もが柔軟に働くことができる環境整備」28.5%、「再生可能エネルギーなどの利活用」17.4%、「人材育成・創業支援」15.5%と続いているが、全体的に回答が分散しており、産業、環境、行政事務効率化等、幅広い分野において関心が持たれている。

問9 こおりやま広域圏が連携することによってどのようなサービスが受けられると良いと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：316人）



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・連携による域内の物価抑制

受けたいサービスの分野としては、「避難所や災害時備蓄品の相互利用」が64.6%で最も高く、2019年の東日本台風をはじめ近年多発する豪雨災害等から、防災への意識が高まっている。

次いで「子育てや教育支援施設などの広域利用」39.9%、「共同開催イベントなどへの参加」32.6%、「生涯学習（社会教育施設）の広域利用」26.6%と続いており、市町村間での双方向的な交流のため、施設やイベント等の広域利用を求める傾向が見られる。

問10 「連携中枢都市」（こおりやま広域圏の中心となる都市）である郡山市が特に求められる役割はどのようなものだと思いますか？（自由記述）

（回答者：191人）

回答事例（主なもの）	
■リーダーシップ・ まとめ役・交流促進等	<ul style="list-style-type: none"> ・連携中枢都市として圏域全体の発展のけん引 ・行政サービスの広域化・デジタル化の推進 ・連携の効果が大きい優れた企画を考え、推進・実行する力 ・連携市町村の状況把握 ・ハブとして広域圏の連携強化 ・相互に協力・共有できる組織づくり 等
■産業の促進等	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の利便性を活かした観光政策立案 ・経済県都として圏域の経済発展のための中核 ・自然・観光・娯楽施設の誘致 等
■情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・連携市町村を巻き込んだPRの実施 ・観光ルートづくりと発信 ・県、国に対する意見（要望）を積極的に発信 等
■安心安全（防災等）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策の連携 ・災害時の迅速かつきめ細かな対応マニュアルの策定（情報提供、物資、避難所、ボランティア 等） ・治安の強化 等
■医療関連の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・医療（夜間医療）の連携 ・妊活・出産・育児の支援 ・新型コロナウイルス対策の連携 ・救急医療体制の整備 等
■交通の充実等	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の整備 ・交通拠点としてのまちづくり ・定期観光バスの周遊 等
■イベント実施	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便を活かしたイベント拠点 ・連携市町村を巻き込んだイベントの実施 ・多様な飲食店を活かした連携市町村への出張販売 等
■その他	<ul style="list-style-type: none"> ・広域を意識した都市計画の連携 ・連携市町村を増やし、連携のさらなる活性化 ・文化の振興 ・県に準ずる機能の集中化 等

郡山市が特に求められる役割について、リーダーシップやまとめ役等に関する回答が多く、連携中枢都市として圏域全体の発展をけん引することが期待されている。
他にも、産業や医療、交通といった都市基盤の整備、住民手続きの利便性向上等、様々な回答が見られた。

問11 郡山市以外の連携15市町村に求められる役割はどのようなものかと思えますか？（自由記述）

（回答者：186人）

回答事例（主なもの）	
■情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に居住している方のSNSを紹介するなど、地元住民ならではの情報発信 ・地域の歴史を掘り起こして分かりやすく面白く発信 ・情報誌の発行 ・マニアックな面白さを発信 ・郡山駅前にこおりやま広域圏情報の発信基地を設置 等
■それぞれの強み、特性の発揮等	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての市町村が中心であり、周辺という意識を持たない ・自然環境、観光といった強みのPR ・各市町村の歴史、文化の普及 ・郡山市任せでなく自主的に動く ・地域の特色を生かしたイベントや物販 ・郡山市街では得られない自然豊かな生活・子育て環境 等
■連携への理解・協力等	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの共同開催 ・施設等の地域資源の相互利用と連携 ・災害時の迅速かつ柔軟な連携、避難所としての役割 ・行政サービスの広域化 ・郡山市を中心とした円形構想の拡大化 等
■観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・郡山市を宿泊拠点とし各市町村へ観光誘客 ・各市町村の祭、伝統芸能、景勝地、美味しいものをPR ・地域間の連携した観光スポットの開発と発信 ・共同音楽祭の実施 等
■特産品等	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の特産品等の県内外へのPR ・特産品等のニーズ調査、販路拡大 ・共同物産展の実施 等
■その他	<ul style="list-style-type: none"> ・都市機能と自然の融和 ・自然環境の保護、休耕地等の活用 ・地域の伝統・文化の継承 ・郡山市は何でも揃っているのも積極的に利用してほしい 等

郡山市以外の連携市町村に求められる役割について、「情報発信」に関する回答が最も多く、地域の歴史や魅力が広域圏内外にしっかり伝わっていないという実感を持っている方が多いと見受けられる。

一方で、「それぞれの特性、強みの発揮等」に関する回答も多く、郡山市の取組に賛同するだけでなく各市町村が主体的に参画し、強みを生かした役割を果たすことが求められている。

その他、伝統文化や豊かな自然の保護といった、都市部にはない「田舎のよさ」があげられる等、幅広い回答が見られた。

問 12 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（回答者：59人）

（主な意見）

■ 連携のあり方について
<p>・まず災害時の相互支援体制の構築、衣料品や医薬品、備蓄品などの相互供給、避難場所の提供などができればいいと思います。（50代・女性）</p>
<p>・福島県は何かと縦割りが強いと感じるので、せっかくの広域連携を活かせるよう、様々な制度の見直しや新設など、住民の皆さんがメリットを感じられる暮らしやすいまちづくりを進めてほしいと思います。特に住民減少が進む町村に恩恵が行くようにしてほしいです。（50代・女性）</p>
<p>・災害時の対応や地域活性化を図るうえで近隣市町村との連携は欠かせないと思います。個人的に二本松市や猪苗代町へは頻繁に出かけますが、正直広域圏内の住民であるメリットは感じたことがありません。イベントや施設での優待が「市内在住者」となっているうちは普段の生活の中での広域圏のメリットは生まれません。積極的に「広域圏」を表に出していくべきだと思います。（70代・男性）</p>
■ 産業経済、都市機能の向上について
<p>・広域圏や圏域外の方にも来てもらえるような魅力的な商業施設（アウトレット、コストコ等）を、利便性の良いインター近くに誘致すべきだと思います。（40代・女性）</p>
<p>・須賀川市のtetteのような複合施設を郡山市にもつくって、こおりやま広域圏に広く開放してもらえたら嬉しいです。コロナウイルスが流行する前は、tetteによく行っていて、わいわいパークや図書館を利用していましたが、イベントは須賀川市民だけと制限されていることも多く、残念な思いをしています。（60代・女性）</p>
<p>・郡山駅前がどんどん廃れていると感じます。夜のお店や駐車場だけでなく、シネコンの誘致など駅前に人が集まるようにしてほしいです。（40代・女性）</p>
■ 広域圏の認識と情報発信について
<p>・若年層にも伝わりやすい情報発信の仕方をご検討いただければ、より良いと考えます。（40代・女性）</p>
<p>・現状ではあまり連携していることが分かりにくいので、各地域の特色を集約して、共通でイベントができるような企画が必要と考えます。（60代・男性）</p>
<p>・連携がとればとれるほど、災害時の対策の幅が広がるとは思います。周知の部分で足りないと思うので、もっとSNSなどを活用して広めていく必要があると思います。（50代・男性）</p>
■ 住民サービスの向上について
<p>・高齢者健康長寿サポート事業などは、広域圏内で同様の事業があれば相互に利用できるようにしてほしいです。（60代・女性）</p>
<p>・図書館をよく利用させていただいていますが、二本松市の図書も利用可能になったとうかがいました。地域が拡大すれば、図書の共有ができて、より多くの図書を網羅することができると思うとワクワクします。小さな図書館がネットで繋がり大きな図書館になったら素晴らしいと思います。（60代・男性）</p>
<p>・子どもを含む次世代を担う若い人材が育つ、とどまる、生活しやすくなるのが非常に重要だと思います。高齢化対策も重要ですが、そればかりに予算がつかわれては先がないと感じます。（70代・男性）</p>